

【壱岐対馬へ】・・・鈴木

先月の末に、壱岐対馬へ三日間行って参りました。今回で所長と四度目の（娘は二度目）旅になりました。

出発前の下調べで、壱岐島（南北 17 km 東西 15 km）、対馬ともにとて古い歴史や、遺跡があるのでじっくり見てみたいと思いました。

まず羽田から福岡まで行き、福岡港からジェットfoilで壱岐島の郷ノ浦港へ到着。バスから見えた島内は、島の人口約 25 千人とのことで、中心街には小さなお店が並んでいて、のどかな町並みでした。

岳の辻展望台…壱岐島で一番高い山（標高 212m）ここから島全体が見渡せて、素晴らしい景色でした。宿は、国民宿舎壱岐島荘（国民宿舎に泊まるのは初めてでした）で、アワビの踊り焼きの懐石料理を味わいました。麦焼酎発祥の地で生まれた銘酒、麦焼酎の本場とあって複数の酒造がある中、個性的な名前の壱岐スーパーゴールドは、500 年続く伝統的な製法で琥珀色をして美味しかったです（娘の感想ですが…）。



二日目は猿岩…黒崎半島の先端にある壱岐のシンボル猿岩で、自然によって造られた奇岩は高さ 45m の巨大な猿形「そっぽを向いたサル」ということですが、個人的にはゴリラにしか見えませんでした。

一支国博物館…壱岐島は、弥生時代には一支国（いきこく）と呼ばれ、魏志倭人伝にも登場する重要な国でした。海を介して、外交の先進都市であった「一支国」の拠点として栄えたのが、国指定特別史跡、原の辻（はるのつじ）遺跡で、17 棟が復元されています。この博物館の設計は、黒川紀章氏（この博物館が遺作）で、その原の辻遺跡を一望できる小高い丘に建ち、曲線を描いた屋根が周辺の山並みにも溶け込んでいました。常設展示室では、原の辻遺跡をはじめ、島内に 280 点在する古墳から出土した貴重な実物資料を見ることが出来ました。またダイナミックな映像で弥生時代の交易の様子を紹介したビューシアターの上映が終わってスクリーンが降りると、窓の向こうに原の遺跡公園が広がっているという、お洒落な演出になっており、とても感激しました。館内には、表情豊かなフィギュアが弥生時代の原の辻の暮らしを伝える巨大ジオラマなども楽しく壱岐の歴史を見ることが出来ました。館内説明をしていた

だいた館長も実に良かったです…と、壱岐島の話でいっぱいになってしまい、対馬の話は機会があるときにまた。

最後となりますが、今回の旅行先の選択は実に素晴らしいと思いました。さすが所長です、本当にありがとうございました。

【余裕をもつこと】・・・小倉

先日、約束の時間に遅れては行けないと車の速度を少しばかり超過してしまっていた中、自分で気づき減速していた矢先に、背後から白バイの気配を感じ「しまった」と捕まることを覚悟していたら、追いかけられず見過ごしていただけました。これは急ぐと危ない、余裕を持ちなさいとの警告だと思い「余裕をもたないといけない」と反省させられました。私自身、誠実な人が好きでとても憧れます。長くつきあっていける関係であるようにも思います。

あらためて誠実な人とは・真面目で真心がある、相手に嫌な思いをさせたり嘘をつかない、私利私欲で物事を考えない、きちんと相手の話を聞く、常に向上心をもっている、そんな方は、時間を大切に余裕がある人にもみえます。常に相手軸で信頼が出来ます。不誠実な人は真逆で、人への関心も薄く、自分が知らず知らずのうちに人を傷つけていたり関係性に距離感が生じているように感じます。自分では悪気はなく気づいていないので何度も繰り返します。よく何かあると相手を責めますが、少なからず自分にも非があるわけですし、誠実であることには謙虚さ「謙虚にして驕らず」が大切に思いました。

秋には、たくさん〇〇の秋がありますが、どれも余裕がないと行動にも結びつきません。今秋は、さらに情勢的にも厳しい状況が続いておりますが、何とかのりきり気持ちだけは明るくたいです。

【9月と言えば何を思い浮かべますか】・・・手塚

9月といえば、皆さんは何を思い浮かべますか。どんな季節か、どんな月かといったところから始まるのではないのでしょうか。日本の旧暦に合わせて名付けられた「和風月名」があります。9月といえば「長月（ながつき）」です。「夜が長い月」が由来とされており、「夜長月（よながつき）」が省略されて「長月」となりました。9月になると日の入りがだんだんと早くなり、秋の夜長といわれる季節



に入ります。このことから、この月の夜の時間は過ごしやすく、何をしようかあれこれ迷った時期なのかもしれませんね。

【敬老の日と秋分の日】

9月といえば、カレンダー上の祝日が2回あります。第三月曜日の敬老の日と、毎年秋分に設定される秋分の日です。敬老の日と秋分の日に近い日なので、この数日間は「シルバーウィーク」と呼ばれることもあります。お彼岸とも重なるので、有給休暇を取得して帰省や旅行をする人もいるようですね。秋分の日といえば、昼と夜の長さがほぼ同じになる一日です。秋の夜長を楽しむきっかけになりますよ。

【十五夜・十六夜とお月見】

9月といえば「十五夜」があります。新月から数え 15 日目の月夜は中秋の名月といわれます。一年で最も美しい満月で、この時期の実りなどに感謝する日です。この時期に人気があるのは、ススキや萩の花を飾ることや、お団子を食べることでしょう。ちなみに満月の次の日の十六夜（いざよい）といえば、中秋の名月の翌日をさすことが多いそうです。人気の本を読んだり趣味に没頭したりするなど、秋の夜長を楽しむ一日にしてください。

【新米や穀物が出回る時期】

9月といえば、コメや豆類などが収穫の時期を迎えます。この時期から 10 月ころまで全国各地で出回る新米は、水分量やでんぷん質が多いので、もちりとした歯ごたえや甘さが楽しめます。

【「おはぎ」と「ぼたもち」の違い】

9月といえば、おはぎを楽しみにしている人もいることでしょう。もち米をふかしてつぶし、丸めたものをたっぷりのあんこで包んだ食べ物です。おはぎとぼたもちは実は同じ食べ物。秋彼岸といえば「萩」の時期で、春彼岸といえば「牡丹」の時期です。その時期に咲く花によって、同じ食べ物でもネーミングが変わってしまうのは面白いですね。お墓参りの供養で食べるおはぎは、新物の小豆を使って作られることもあります。

9月といえば、ブドウやナシなどの人気の果物や、ナスなどの野菜がおいしい時期に差し掛かります。とくに秋ナスは小ぶりながらも、実や皮が柔らかく味がよいと人気で、糖度が高い果物や、栗・芋類も最盛期を迎えるので「食欲の秋」という言葉がしっくりとなじみますね。

